

＜今日の説教のポイント ヨハネによる福音書 20 章 24-29 節＞

1 理解できるトマスの発言？ それが変わえられる出来事が起こった！

復活された主イエスに会って信じた他の弟子たち (19-20 節)。彼らは「見たから信じた」のでしょうか。だとすると、その場にいなかったのだから「見ないと信じない」と主張するトマスを責めることはできません。死んだ人が復活するということがそれほど特異な出来事です。しかし、この普通ではない出来事の意味、目的を理解する時、すべては違って見えてきます。そのためには、この時に復活の主が言われた言葉 (21-23 節) に注目することが助けになります。

2 23 節後半はトマス自身のこと。だから復活の主は彼に向かわれた！

21-22 節には、主イエスに代わって弟子たちが全世界に派遣されて福音を宣べ伝えていくことが「聖霊の吹きかけ」として記されています。そして、その後語られた 23 節の言葉が重要です。これは、イエスの十字架の死によって全ての人の罪が赦されることを弟子たちが伝えなかったら、人はなお神様のその破格の恵みを知らない中に置かれ続ける (=「赦されないまま残る」) 事実を言われているのです。ここでそれはトマスです。だからこそ、この後、まだ信じない (=この赦しの恵みを知らない) トマスに復活の主は向かって行かれたのです！

3 「見ないのに信じる」ことはできるのか。できる！ その理由は？

ヨハネは、「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである」という主の言葉で福音書を終えます。この言葉を一番伝えたかったのでしょうか。見ないのに信じられるのか？ 信じられません。私たちは信じる者とされました！ それはなぜか？ 復活という出来事の事象だけ見ていると「あり得ない」で終わりです。しかし、聖書を通して知ってきたイエス様というお方の復活を考える時、「あり得る」と思えるのです。1 で、「この普通ではない出来事の意味、目的を理解する時、すべては違って見えてきます」と記した所以です。私たちの思いを超えた、つまり「普通ではない」ことを起こし得る「全能の、恵みに満ちた」神様の出来事だとしたなら、それは見ないでも起こり得ると信じることができるのです。それもまた神様が起こして下さる出来事なのです！ この恵みの神様と共に生き出す時に、「主にある平和」(19, 21, 26, 14:27, 16:33)の中を歩めるようになるのです！